

副詞“还”についての一考察

大 島 潤 子

0. はじめに

副詞の“还”は、様々な意味を表す語である。しかし、そのためにかえって“还”という語の本来の働きが見えにくくなっているように思われる。例えば、小学館『中日辞典』では、“还”は「(項目や数量の増加・範囲の拡大を表す)それに、また、もっと。」という意味を表すと記述されている一方、「(数量が少ないことや時間がまだ早いことを表す)まだ。」という意味を表すとも記述されている。

(1) 他家里除了他们夫妻以外，还有老人和孩子。(小学館『中日辞典』)

(2) 钱还不够，得攒到一千元才能买到。(同上)

上の二例は、(1)が「増加」の意味を表し、(2)が「不足」の意味を表すものである。しかしながらこのような記述を見ていると、「増加」と「不足」という異なった意味をなぜ同じ“还”が言い表せるのか、という疑問が生じてくる。

“还”のように、様々な場面で用いられる語の場合、その語自身が多様な意味を表しているように思われがちである。しかし実際には、基本義は一つであり、そこから多様な意味が生じてくるものと考えられる。そしてそれが明らかにされてこそ、語の働きを正しく理解できるはずである。

本論文では“还”の様々な用法を考察し、その基本義を明らかにしていく。

1. “还”の意味について

“还”の記述は辞書によって差があり、分類の仕方が微妙に異なる。しかし、大筋としては以下の三種類に落ち着くと言えそうである。

- 1 動作・状態の継続・進行・持続・未変化を表す
- 2 補充を表す
- 3 語気を表す

次に、その具体例を見てみよう。

1、動作・状態の継続・進行・持続・未変化を表す

- (3) 他还在图书馆。(《现代汉语八百词》、以下《八》)
- (4) 演出虽然已经结束，人们还不愿意散去。(《八》)
- (5) 他家的灯昨天夜里就亮着，今天早晨还亮着。(《现代汉语虚词词典》、以下《虚》)
- (6) 他还在睡，请你等会儿。(《虚》)

2、補充を表す

- (7) 除了他们三个以外，小组里还有我。(《八》)
- (8) 这个节目八点种还要重播一次。(《八》)
- (9) 山上不但可以看山，还可以看谷。(《虚》)
- (10) 还不到八个人，这球怎么打。(《虚》)
- (11) 新车间比旧车间还要大一万平方米。(《八》)

3、語気を表す

- (12) 一路上还算顺利。(《虚》)
- (13) 下这么大的雨，没想到你还真准时到了。(《八》)
- (14) 都九点了，还早。(《虚》)
- (15) 你还是中文系的学生呢？连这个字都不认识。(《现代汉语常用词用法词典》、以下《常》)

1の動作・状態の継続等の意味については、どの辞書の記述もほぼ同じなのだが、2、3になってくると、分類の仕方が辞書によってかなり異なる。例えば、ある辞書では先に挙げた「増加」「不足」の意味を、同時に2の「補充」

という項目に分類しているが、別の辞書では「増加」は範囲の拡大として「補充」の項目に、「不足」は足りないという語気を表すものとして「語気」の項目に分類している。また、程度の意味を表す場合の“还”も、ともに「語気」の項目に分類する辞書がある一方、“比”構文に現れる“还”を「補充」、「まあまあ」にあたる意味の“还”を「語気」と分類している辞書もある。

どのように分類するのが最もふさわしいかはまた別の問題として、ここで大事なものは、上に挙げた1～3の意味の間に共通性を見出すということである。つまり、ある共通の意味から「補充」なり「語気」なりの意味が生じてくると考えられ、まずはその基本義を明らかにすることが重要である。

2. “还”に関する先行研究と疑問点

“还”の意味記述を試みた先行研究に、原(1992)がある。ここでは“还”の意味をまず、I. 時に関するもの(動作の継続・未変化等を表すもの)、II. 重複、項目、数量、範囲に関するもの、III. 程度に関するもの、IV. 意外の語気を表すもの、に分類する。そして、この中でもI、IIを“还”の本質的意味を記述するのに重要なものとし、最終的に“还”はすべてIに収斂され、時に関する意味を表すのがその本来の意味であると主張する。原(1992)では、時を表す“还”Iを次のように説明する。

(16) A: 玛丽起来吗? (マリーは起きた?)

B: 还没起呢。(まだですよ。)

A: 还没起呢, 都七点了。(まだ起きてないの? もう7時よ。)(原1992)

原氏は、(16)の“还”は「マリーは起きている」という予測に反して実際には「マリーが寝ている」ことを表すとしており、発話の時点ではマリーは起きておらず、マリーが起きるのは発話時点よりも後のことであると述べる。そして、「マリーは起きている」という予測を前提事象、「マリーが寝ている」という現実の状態を現実事象として、“还”はこの二つの関係を規定するものであり、すなわち“还”は、時間的連続性の中での事象を可変的なもの、時間の流れに伴って事態が変化するものと把握して、前提事象と現実事象を既定し、

その前提事象と現実事象が一致しないことを示すものだと指摘している。

原論文は、“还”を統一的に説明できる規則を導き出そうとしている点で、意義深いと思われるが、筆者が疑問に思う点が二点ほどある。まずは、“还”が時間に関する意味をその本質的意味とするという点である。原氏は、I・IIが“还”の基本的・本質的な意味の記述に重要である理由として、「(IとIIが)多くの用例の中で、基本的なものとして両極をなしているからである。」(85頁)と述べているのだが、なぜこの二つが意味記述に重要なものなのかについての説明がない。それが、本質的意味を記述するために重要なものかどうかは、すべての意味について検討した結果明らかになるものである。つまり、時に関する意味をはじめとした多岐に渡る意味について検討した結果、それらすべてに共通の基本義を導き出し、それが最も多用されるのが時に関する意味を表す場合であり、そこから、時に関するものを重要な意味と認める、というのであれば納得できるが、ある特定の意味を最初から重要なものとし、最終的にすべての意味がそこに収斂されていくと説明するのでは、説得力を欠くように思われる。

もう一点は、“还”が前提と現実の不一致を表すという点である。この指摘は非常に興味深いのだが、例えば(16)のような場合には、「マリーが起きている」という前提と、「起きていない」という事実との不一致という解釈が可能かもしれないが、

(1) 他家里除了他们夫妻以外, 还有老人和孩子。(小学館『中日辞典』)

のような場合はどうだろうか。「家には夫婦二人しかいない」という前提に対して、「さらに老人と子供がいる」という現実があり、その不一致を“还”が表していると言えるだろうか。“还”が前提と現実の不一致を表すという説明は、すべての場合に有効とはいえないのではないだろうか。この点についても、再検討の必要があるように思われる。

以上の疑問点を解決すべく、次章より分析を進めていく。

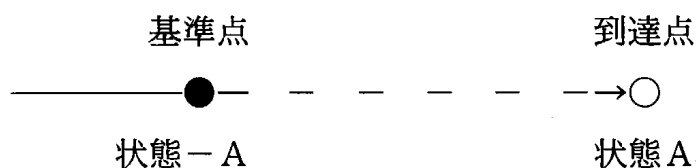
3. 本稿における“还”の分類について

従来の記述では、“还”の用法を三種類に分類しているが、本稿では、①動作・状態の継続・未変化等を表す場合 ②数量・範囲の増減を表す場合 ③程度を表す場合 ④意外性・反語・強調等の語気を表す場合、の四つに分類して考察する¹⁾。①④は、従来の分類通りとし、「補充」とされているものについては、②③の二つに分けて考察していく。

3.1、動作・状態の継続・未変化等を表す場合

- (17) 那次打你，你还记得？（《城》）
- (18) 时间又过了两天，枯树还在原地方长着。（《枯》）
- (19) 屋外刮着风，天还黑糊糊的。（《清》）
- (20) 可她还在挑……。《挑》）
- (21) 妈，爸爸的客人还没走吗？（《城》）

(17) (18) (19) は「覚えている」「元の場所にある」「薄暗い」という状態の継続を、(20) は「選ぶ」という行為の継続を、そして (21) は「客が帰らない」という状態が継続していることを表している。これらは、継続・未変化といった異なった言葉で説明されているが、いずれの例も時間の経過に伴って事態が変化することを意識していると考えられる。すなわち、これらの“还”は、いずれAという状態になることが予測されるが、現時点ではAという状態になっていないことを表している。つまり、状態変化を意識した連続したスケール上に、「いずれAという状態になることが予測される点」と「Aに至っていない現時点での状態を表す点」という二つの点があり、そこに隔たりがあることを言い表したものと考えられる。前者を到達点、後者を基準点と言い換えれば、“还”は、基準点が言い表わす状態が、予測される到達点に達しないことを表すものと言える。



この二点は、片やAであり、片やAではないという対比的な関係をなしているが、それは連続したスケールの上で、つながりをもったものとして存在している。

例えば、(17)では「もうすでにその出来事を覚えていない」という状態が予測されるのに対し、基準点では「まだ覚えている」のであり、それが“还”によって表わされている。(21)も同様に、「客が帰る」という到達点に至っていないこと、つまり「まだ客が帰らない」ことを“还”が言い表している。

そして、これらの“还”は通常、継続を表すと言われるのだが、実際には“还”自身が継続の意味を表しているのではないと思われる。例えば、次の例を見てみよう。

(20) 可她还在挑……。《挑》

(22) 要是死树就好办了，问题是它还活着！《枯》

これらの例では“还”が“在”“着”という、それ自身で動作の継続を表す語とともに用いられている。つまり、動作・状態が継続しているという意味そのものは“在”“着”が担っていると考えられる。そこに“还”が出てくることにより、その継続している動作・状態性には到達点があることが明確になり、現状がそこに行き着いていないという、未到達の意識を表すのだと思われる。到達点に至って初めて「Aという状態」になるのであって、そこに行き着かないからこそ「Aでない状態」が「継続」しているのである。“还”が表す「継続」の意味は、むしろそこから生じてくるものと考えられる。

3.2、数量・範囲の増減を表す場合

“还”は、数量・範囲の増加や不足を表す場合がある。従来の記述では、「累加」や「不足」とされる意味のものである。

(7) 除了他们三个以外，小组里还有我。《八》

(23) 这是梅花，有红梅、白梅、绿梅、还有朱砂梅，一树一树的，每一树梅花都是一树诗。《虚》

(10) 还不到八个人，这球怎么打。《虚》

(24) 这个，你还小，跟你说了，你也不懂。（《城》）

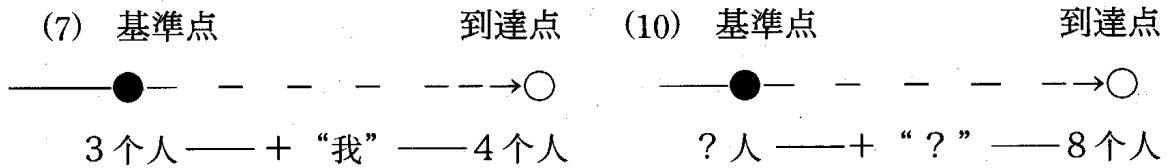
上例のうち、先の2例は増加とされるもの、後の2例は不足を表すとされるものである。増加と不足という異なった概念を言い表すのに、なぜ同じ“还”が用いられるのだろうか。これらの例の“还”を説明するのに、ここでも到達点と基準点という概念が有効であると思われる。つまり、到達点に達しないことを“还”が表しているのである。

まず、「増加」を表す場合について考えてみる。(7)は、グループの人数は全部で4人であり、そのうちまず3人を数え上げ、残りの一人である私を「追加」すれば、全部の人数を数え上げたことになるという意味である。(23)も同様に、梅の種類を数え上げ、最後の朱砂梅を数え上げた所ですべてが揃うという意味である。(7)を例にとると、ここでは“除了”の後ろに現われた3人という人数が基準点、残りの1人を数えあげた4人が到達点となっている。この場合の“还”は、3人では到達点に至らず、あと1人分の人数を足すことで到達点に至るといふ、未到達の意識を表しているのである。

次に「不足」を表す場合を考えてみる。(10)を例にとると、ここでは8人という人数が到達点であり、現時点では何人かはわからないが、現時点での人数を基準として、それが8人という到達点には至っていないことを表している。つまり、到達点への未到達が表されているのである。

結局のところ、「増加」も「不足」も結局は、到達点に至らないという事態を、いかなる視点で捉えるかの違いに過ぎないのではないだろうか。つまり、いずれの場合も到達点はわかっており、「あとこれだけのものを足せば到達点に達する」という捉え方をすれば結果的に「増加」の意味となり、「到達点に達するには不足分がある」と捉えれば「不足」の意味となる。すなわち、“还”そのものに「増加」や「不足」といった異なった意味があるのではなく、視点の違いから、表わされる意味が異なってくるのだと思われる。

数量・範囲の増加や不足を言い表す場合も、その到達点や基準点は、動作・状態の継続等の意味を表す3.1の場合と同様に、連続したスケールの上に置かれる。以下、図に示す。



3.3、程度を表す場合

次に、“还”が程度を表す場合について考えてみる。“还”には、程度が高い意味を表す場合と、あまり高くない意味を表す場合の二つがある。本稿では、前者を“还①”、後者を“还②”と呼ぶ。

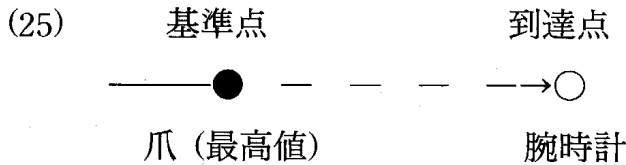
3.3.1、程度が高い意味を表す“还①”

“还①”は“比”構文にのみ用いられ、専ら誇張の意味を表す。

- (25) 唉，你看她那块手表比指甲盖还小哩！（《香》）
- (26) 不错，不错，我看比梅兰芳还好。（NT9507）
- (27) 上面的天比宝石还蓝。下面的云比雪团还白。（《蝴》）
- (28) 鸭蛋生下来的时候，喏，比唐老鸭还大一倍呢！（《与》）
- (29) 管传达室的葛大爷比石大爷还老几岁，是个高瘦、撮腮的老头，…（《如》）

この“A比B还Y”構文では、比較基準となるBに特徴がある。Bはそれ自身が十分に程度が高いと認識されるもの、極端なもの、いわば極点である。(25)は、腕時計がいかに小さいかを強調した文である。一般に指の爪とは小さなものであり、その爪でさえも及ばないほど腕時計が小さいということを強調している。以下例えば(27)でも、宝石の青さや雪の白さといった、それ自身すでに高い程度を持つもの、言わば最高値のものを比較基準として、空や雲の色を強調している。

これらの例においても、“还①”は比較基準とするものの程度が、到達点に及ばないことを言い表していると考えられる。すなわち、“A比B还Y”構文のAを到達点、Bを基準点ととらえ、しかも基準点であるBがすでに最高値であり、そのBでさえも到達点のAには及ばないという、未到達の意識が“还①”によって表わされているのである。



“还①”は、それ自身が高い程度を表すのではなく、もともと高い程度を持った基準点と、それよりもさらに高い程度を持つ到達点との距離感を言い表すため、その距離が強調されることになり、高い程度を表しているように感じられるのである。最高値のものをあえて比較基準とし、それを上回る到達点が存在するという言い方をすることによって、到達点に位置するものの「ただならなさ」を強調する。このような点から、“还①”は誇張の意味を表わすものと思われる。

さらに、“A比B还Y”構文では、(28) (29) のように、“还①”の後ろに数量表現を伴う場合がある。ここで出てくる数量表現は、到達点と基準点という二点の隔たりの大きさを示している。“比”構文という連続したスケールの上で、到達点と基準点の位置関係が明らかになると、両者の間にどれだけの隔たりのあるかが明確になる。そこで、まず“还”によって到達点への未到達を表し、さらに両者間の隔たりを数量を用いて言い表すことが可能になるものと思われる。ここでの数量表現は、それだけの隔たりのあることを強調するためのものと考えられる”。

3.3.2、程度があまり高くない意味を表す“还②”

次に“还②”を見てみよう。“还②”は“还①”とは異なり、“比”構文では用いられない。「まあまあだ」「なんとか～だ」という意味を表す。

(30) 病人情况还好, 主要是累的。(《小》)

(31) 还算送得及时, 再晚就危险了。(NT9012)

“还②”が修飾できるのはプラス評価、或いは“大、小、瘦、胖”等の相対評価を表す形容詞のみである。“还②+～”の形で言い切れるのは「还好／还可以／还不错／还行／还成」だけで、それ以外は“还算聪明”のように“还算～”の形で用いられる。

(32) 这个房间还干净些, 那个房间脏死了。(马 (1984))

(33) 这篇文章还好一点，那篇文章不怎么好。(同上)

(34) 二少爷，我们谈过话，我知道你在你们家里还算是明白点的…(《雷》)

これらの“还②”も、到達点と基準点という二点が意識されていると思われる。例えば、(32)では、「あの部屋」が到達点となっている。そして、それに比較される「この部屋」が基準点である。つまり、この部屋もあの部屋もきれいではないのだが、「この部屋」は「あの部屋」の汚さを到達点としたら、そこまでには及んでいない、「まだきれいである」ことを言い表している。この時、到達点になるものの状態は、いわば最低値である。つまり、(32)の「あの部屋」は汚さの極点を示すものと言える。

(32)	基準点	到達点
汚さ 小	——●——	——→○ 大
	この部屋	あの部屋 (最低値)

つまり“还②”は、基準点に対してもさほどいい評価は与えられないのだが、最低値には至っていないということを言い表す。そして、最低値を免れているということから、結果的に「何とか～だ」という許容や、「まあまあ」という控えめな評価を表すものと思われる。“还②”自身が、さほど高くない程度を表すのではなく、到達点(しかも最低値)への未到達の意識が、控えめな評価となり、結果的に表わされる程度が低くなるのである。

また、“还②”は後ろに数量表現を伴う場合がある。

(35) 这根绳子还结实一点儿。(马 1984)

“还②”は、最低点である到達点と比較して、「それよりいくらかはましである」ということを言い表わすものである。そのため、“还②”の後ろに表れるのは“一点儿、一些”に限られる。

3.4. 意外性・反語・強調等の語気を表す場合

次に意外性等を表す場合について考えてみる。今まで見てきたように、“还”は基準点が到達点に至らないことを言い表すものである。それが、予測された到達点と、基準点とが正反対であるという意外性を表す意味にもつながってい

くようである。例えば、

- (36) 中间靠左的玻璃柜放满了古玩、前面的小矮凳有绿花的椅垫，左角的长沙发还不旧，上面放着三、四个缎制的厚垫子。(《雷》)

という例の下線部分について、ある中国語母語話者は「左端の長椅子はまだ古くなっていない」とも解釈できるが、「左端の長椅子は思っていたほど古くはない」という、意外の意味にも解釈できるという。意外を表す意味へのつながりを示唆するものと思われる。

“还”が意外性を表す場合には、“还真”の形で使われることが多い。

- (37) A：雨天还真有意思。

B：我没说错吧？(NT9601)

- (38) 谁能想到，沙漠里还真有这样的天地。(《虚》)

(37) は、この発話の前に“今天好不容易来到寒山寺，真不巧，下雨了。”とAが言う場面がある。その後、雨の中をしばらく歩いてからこの発話が出てくる。つまり「雨降りではつまらない」と話し手が考えていたのに対し、実際は「つまらない」という事態には至らなかったこと、むしろその反対であったことを述べている。ここでは、「雨の日に来て間が悪い」という予測、すなわち到達点と、「雨の日もなかなか良い」という事実、すなわち基準点とが正反対になることから、驚き・意外の意味を表すものと思われる。

また、“还”はしばしば反語として用いられる。

- (10) 都九点了，还早。(《虚》)

- (39) 皇帝来的地方嘛，小了还行？(NT9009)

- (40) 算术不及格，还当总统呢？伸腿儿！(《总》)

先に、“还”は「本来Aであると予測される事態が、Aに至っていないこと」を示すものであると述べた。つまり反語表現では、“还”を用いることで逆に本来あるべきAという状態を浮かび上がらせようとしているように思われる。例えば(10)では、ここでの話し手の真意は“不早”であるが、わざと“还早”と述べることで、本来話し手が述べようとしている“不早”という事実を導き出し、結果的にそれを強調することになるのではないだろうか。

また、次のように強調表現として“连～还…”の形で“还”を用いる場合がある。

(41) 你是副主任，连这个道理还不明白！（『中国語文法教室』）

(42) 带把锁回来，这阵子啊，贼闹得厉害，连新华街上还闹贼呢。（《城》）

これらの場合も、“连”によって取り立てられた事物から予測される事態、つまり(41)では「副主任という立場上、こんな道理はわかって当然である」という予測と、「こんな道理も分からない」という実際の状態が正反対であることを述べているが、“还”を用いることで、話し手の真意である「こんな道理はわかって当然だ」という部分を強調しようとしているのだと思われる。

意外性・強調・反語の意味を表す“还”は、3.1～3で明らかになった「到達点への未到達」という意識から派生して、予測されるべき事態と正反対の事態が存在することへの意外感を示したり、或いは本来予測されるべき事態を導き出し、それを強めるという働きをしており、3.1～3における“还”の意味とはいささか異なるものと思われる。

このような場合の“还”については、より詳しい検討が必要であるが、これについてはまた稿を改めて論じたい。

4. おわりに

以上の考察から、“还”の基本義は「基準点と到達点という二点を捉え、基準点が到達点に及んでいないことを言い表す」ことであると言える。これは、本来目標とすべき点に至らないという未到達の語気とも考えられる。つまり“还”は基本的に語気を表す副詞であり、この語気が、時間や数量、程度に関連した様々な場面で発揮されることにより、継続・増加・不足・程度・意外等の意味を表すのであり、“还”そのものが多様な意味を表している訳ではない、というのが筆者の結論である。

原(1992)は「時に関する“还”こそが“还”の本質的意味である」と述べているが、筆者は“还”の本質的意味、すなわち基本義は、連続したスケールの上におかれた到達点に基準点が及ばないことを表すものであると考える。

副詞“还”についての一考察

“还”は、意外性・反語等の意味を除いて、数量の増加・不足、或いは比較といった連続したスケールの上で用いられる。つまり時に関する“还”も、結局は「到達点への未到達」を表す“还”の基本義が、時間という連続スケールの上に反映されたものにすぎず、基本義そのものではないと思われる。

意外性・強調・反語の意味を表す場合の“还”についてはまだ検討の必要な点が残されている。この点は今後の課題としたい。

注

- 1) 本稿では“还是”は考察の対象外とする。ちなみに“还是”は、副詞として“还”とほぼ同様の意味を表す場合と、接続詞として選択の意味を表す場合とがある。
- 2) “还①”の数量表現との共起については中桐(1997)に言及がある。中桐(1997)は、原(1992)の指摘を受け、“还①”は「想定と現実の間の矛盾—つまり認識の差を問題にするので、その差を具体的に表すため数量詞を伴うことも可能だと考えられる。」(12頁)と指摘する。差を強調するために数量詞を伴うという点では筆者も同じ見解だが、筆者は“还①”は基準点が到達点に及ばないことを表し、その隔たりの大きさを数量詞を用いて強調するものとする。

参考文献

- 相原茂 1997. 「「まあまあ」の“还” hái], 『中国語』4月号。内山書店
- 池田秀喜 1999. 「「もう」と「まだ」—状態の移行を前提とする2つの副詞—」, 『阪大日本語研究』11。大阪大学文学部日本語学講座
- 石神照雄 1978. 「時間に関する<程度性副詞>「マダ」と「モウ」—<副成分>設定の一試論—」, 『国語学研究』18。東北大学文学部
- 大島吉郎 1986. 「比較文の‘还’に関する若干の考察」, 『中国語研究』25。
『中国語研究』編集委員会
- 小学館 1992. 『中日辞典』。小学館

- 杉村博文 1994. 『中国語文法教室』。大修館書店
- 中桐典子 1997. 「“比”構文における“更”と“还”」, 『お茶の水女子大学中国文学会報』 第16号
- 原由起子 1992. 「“还”と時間副詞—日本語との比較から—」, 『日本語と中国語の対照研究論文集(下)』。くろしお出版
- 飛田良文・浅田秀子 1994. 『現代副詞用法辞典』。東京堂出版
- 北京大学中文系 1955 1957 級语言班編 1982. 《现代汉语虚词例释》。商务印书馆
- 候学超 1998. 《现代汉语虚词词典》。北京大学出版社
- 蒋琪・金立鑫 1997. 〈“再”与“还”重复义的比较研究〉, 《中国语文》第3期
- 李晓琪等 1997. 《汉语常用词用法词典》。北京大学出版社
- 陆俭明 1980. 〈“更”和“还”〉, 《语言学论丛》第6辑
- 吕叔湘主编 1999. 《现代汉语八百词》增订本。商务印书馆
- 马真 1984. 〈关于表示程度浅的副词“还”〉, 《中国语文》第3期
- 杨淑璋 1985. 〈副词“还”和“再”的区别〉, 《语言教学与研究》第3期
- 殷志平 1995. 〈“X比Y还W”的两种功能〉, 《中国语文》第2期
- 赵淑华 1981. 〈关于“还”的对话〉, 《语言教学与研究》第1期

<例文出典>

《城》—林海音著《城南旧事》, 中国語全文検索データベース「百步穿楊」より
／《蝴》—王蒙著《蝴蝶》, 《王蒙文集 第三卷》华艺出版社 1993
／《与》—《与敏豪生比吹牛》, 艾明主編《中国著名小童话》河北大学出版社 1994 より
／《如》—刘心武著《如意》, 《刘心武 中国当代作家选集丛书》人民文学出版社 1996
／(NT)—NHK テレビ中国語会話テキスト 1990.9.12月号、1995.7月号日本放送協会
／《香》—铁凝著《哦, 香雪!》, 《中国短編小说讲读》華語教学出版社 1989
／《雷》—曹禺著《雷雨 中国现代名剧丛书》, 人民文学出版社 1997
／《枯》—常利民著《枯树》、《清》—李军著《清晨, 我们去上班》、《挑》—张夏著
《挑》、《小》—敖友余著《小骆驼》、《总》—湛容著《总统梦》, 以上すべて楊殿武・張惠先編著『一分間小説選』中華書店 1996 より